

オーディオ装置の地震対策

オーディオ装置の地震対策は普通の家具類の地震対策とは少々異なります。突っ張り棒とか転倒防止の控えバンド・ロープを利用し難い上、各機器はケーブルで接続されています。

それぞれの機器については、インシュレータを使用するなど、音響的な配慮をされていることも多いかと思われます。

従いまして、オーディオ装置の地震対策については、それぞれの機器が地震の水平力で少し横移動する、各機器を収容しているラック全体も少し横移動するような考え方がいいと存じます。

つまり、各機器、ラック全体がそれぞれ少し滑るような設置の仕方をするようになります。地震の水平力をそれぞれが少しずつ分担して吸収しようという考え方です。

→当社のメインシステムの大型ラックは、今回の地震で全体が僅かに回転、ラック最上段の機器はやはり僅かに回転してずれていました。

重い電源ケーブルが抜けかかった機器もありました。

スピーカーDIATONE DS-10000は全く無事。専用スタンドも背が低いし、全体として重心が低かったことが幸いしたようです。

→サブシステム2, 3のプリメインアンプは全く移動せず。ただし、サブ2の右側のスピーカー(KEF)は3本脚のスパイク(それ程尖ってはいません)のうち1本がスパイク受けから外れ、棚板にスピーカーが横移動した際に付いたと思われる傷が点々と残っていました。

サブ3のスピーカー(ELAC)は専用スタンドに載っていますが、スピーカーとスタンドは1本のネジで緊結されていますし、スタンドの脚は尖ったスパイクではなく、比較的滑り易い樹脂製なので少々横滑りした程度、転倒もしませんでした。

仮に、各機器がオーディオラックにリジッドに固定されていますと、地震力を受けたラック全体が相当横移動せざるをえません。

ラック全体はかなりの重量になっていますので、壁や他の機器、例えばスピーカーに衝突してそれらに損傷を与える危険性があります。

さて、最も神経を使っていたきたい機器はアナログディスクプレーヤーです。

これは機能上、ラックの最上部に置かれますし、ハウリングマージンをとるために脚部はかなり柔らかい構造になっています。

しかし、ターンテーブルなどは大変重いわけで、下手をすると地震の際は大きく揺れて、

設置場所からずれ落ちることがあります。

設置場所に対して滑り易くてもダメだし、全く滑らなくてもマズイことになります。

→当社のアナログプレーヤーは、大きな JBL のサブウーファーの上に、15mm の防振ゴム 2 枚と薄いフェルトを介して設置されています。地震後、1 本の脚は防振ゴムから外れていました。

幸い、プレーヤーは落下しませんでした。サブウーファーの天板をやや滑りやすくし過ぎたことが原因のようです。

アクリルのカバーについては、そもそも全体が軽い上、カバー下側四隅の小さなインシュレータが効果的。プレーヤー本体からカバーがずれることはありませんでした（カバーはプレーヤーに載せているだけで取り付けはしていません）。

オーディオ機器ではありませんが、約 240kg のアップライトピアノが横方向に約 10mm 程度ずれていたことを地震の数日後に発見しました。

この重量に対して水平方向にかなりの地震力が掛かったものと思われました。

やはり重いもの、それも重心位置が高いものについては地震対策が必要です。

表現の仕方は難しいのですが、程々に重くて重心位置が低いものについては比較的安心だと言えるのではないのでしょうか。

大切なオーディオ機器です。今回の地震を契機に地震対策を少しおやりになっては如何でしょうか。

なお、不幸にして機器の落下転倒による損傷が発生した場合、決して諦めることはないと思います。今の世の中ではかなりの確率で修理は可能だと考えております。

以上